

北海道の交通事故概況（4月末確定数）

1 平成29年4月末の交通事故発生状況

区分\内容	4 月 中		4 月 末	
	発生件数(件)	前年比	発生件数(件)	前年比
発生件数(件)	704	-85	3,682	-29
傷者数(人)	823	-105	4,329	-119
死者数(人)	7	-7	30	-13

[過去10年、4月中、4月末及び年間死者の推移]

区分\年別	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	過去平均		H29年
											10か年	5か年	
4月中死者	17	14	16	10	5	13	10	12	17	14	13	13	7
4月末死者	70	46	46	54	39	44	39	42	43	43	47	42	30
年間死者	286	228	218	215	190	200	184	169	177	158	203	178	—

都道府県別（4月中）

順位	1	2	3	13
都道府県名	埼玉	愛知	神奈川・大阪・京都・広島・岐阜	北海道
死者数	13	11	10	7

（4月末）

順位	1	2	3	12
都道府県名	埼玉	愛知	千葉・兵庫	北海道
死者数	61	58	50	30

2 交通死亡事故の発生状況

(1) 4月中の死亡事故（7人）

- 事故類型別：車両単独が2人(28.6%)
- 道路別：国道が3人(42.9%)
- 地形・道路形状別：非市街地直線が5人(71.4%)、市街地直線が2人(28.6%)
- 発生時間帯別：10～12時、18～20時が各々2人(28.6%)
- 第一当事者年齢別：50歳代、高齢運転者による死者が各々2人(28.6%)
- 第一当事者違反別：前方不注意が3人(42.9%)
- 死者年齢別：高齢者が3人(42.9%)

(2) 4月末の死亡事故（30人）

- 事故類型別：
 - ・ 車両単独が10人33.3%（うち操作不適が7人70.0%）
 - ・ 正面衝突が8人26.7%（うちが操作不適が6人75.0%、前方不注意が2人25.0%）
- 道路別：
 - ・ 国道が14人46.7%（うち正面衝突が6人42.9%、人対車両が3人21.4%）
 - ・ 道道が5人16.7%（うち車両単独が2人40.0%、正面衝突、車両相互他、自転車対車が各々1人(20.0%)）
- 地形・道路形状別：
 - ・ 非市街地直線が14人46.7%（うち車両単独が7人50.0%、正面衝突が4人28.6%）
 - ・ 非市街地カーブが6人20.0%（うち正面衝突が4人66.7%、車両相互他、車両単独が各々1人16.7%）
- 発生時間帯別：
 - ・ 10～12時が6人20.0%（うち車両相互他が2人33.3%）
 - ・ 18～20時が5人16.7%（うち車両単独が3人60.0%、車両相互他が1人20.0%）
- 第一当事者年齢別：
 - ・ 高齢運転者による死者が10人33.3%（うち車両単独が6人60.0%、正面衝突が2人20.0%）
 - ・ 50歳代運転者による死者が9人30.0%（うち人対車両が3人33.3%、車両単独が2人22.2%）
- 第一当事者違反別：
 - ・ 操作不適が14人46.7%（うち車両単独が8人57.1%、正面衝突が6人42.9%）
 - ・ 前方不注意が8人26.7%（うち人対車両、正面衝突、追突、車両相互他が各々2人25.0%）
- 死者年齢別：
 - ・ 高齢の死者が16人53.3%（うち車両単独が7人43.8%、人対車両が4人25.0%）
 - ・ 40歳代の死者が4人13.3%（うち正面衝突、車両単独が各々2人50.0%）
 - ・ 50歳代の死者が4人13.3%（うち正面衝突、追突、車両相互他、車両単独が各々1人25.0%）
- シートベルト非着用者：

自動車（二輪を除く）乗車中の死者25人中、シートベルト非着用者は10人(40.0%)であり、うち運転席4人はシートベルトをしていたならば助かった可能性が高いと思われる。

(3) 方面別発生状況

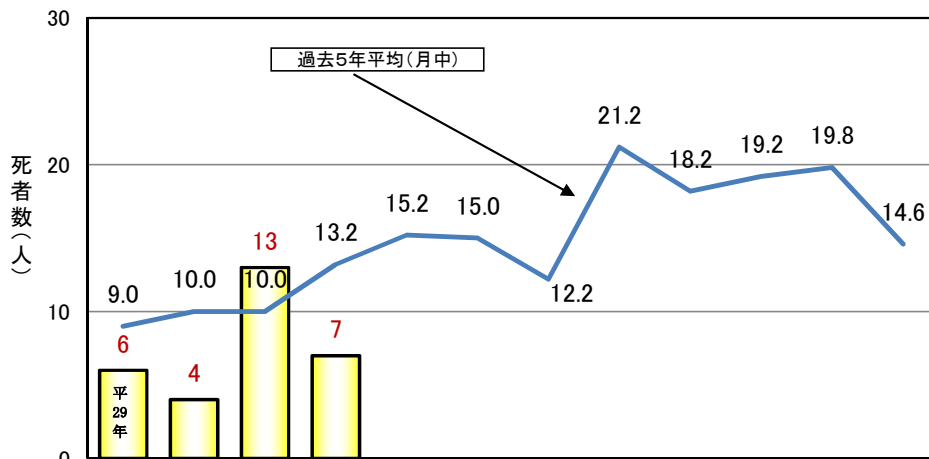
4月中の死者は、札幌方面が4人(57.1%)で最も多く、次いで旭川方面が3人(42.9%)となっている。
 4月末の死者は、札幌方面が13人(43.3%)で最も多く、旭川方面が8人(26.7%)、函館方面が4人(13.3%)となっている。

方面別\区分	発生件数		傷者数		死者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
全道	704	-85	823	-105	7	-7
札幌方面	531	-23	608	-32	4	-6
函館方面	44	-32	58	-41		
旭川方面	57	-6	67	-8	3	2
釧路方面	52	-20	64	-22		-2
北見方面	20	-4	26	-2		-1

方面別\区分	発生件数		傷者数		死者数	
	前年比	前年比	前年比	前年比		
全道	3,682	-29	4,329	-119	30	-13
札幌方面	2,681	45	3,087	-51	13	-13
函館方面	250	-42	320	-51	4	4
旭川方面	344	-55	431	-63	8	2
釧路方面	303	31	350	38	2	-5
北見方面	104	-8	141	8	3	-1

(4) 月別発生状況の推移

4月中の死者は7人で、過去5年平均13.2人を下回っており、4月末においても過去5年平均より下回っている。



区分\月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
平成29年	6	4	13	7									30
年間累計	6	10	23	30									
過去5年平均	9.0	10.0	10.0	13.2	15.2	15.0	12.2	21.2	18.2	19.2	19.8	14.6	177.6
累計平均	9.0	19.0	29.0	42.2	57.4	72.4	84.6	105.8	124.0	143.2	163.0	177.6	

※過去5年の月末累計平均は、各月平均の合計とは一致しない。

(5) 都道府県別死者

4月中は、埼玉県が13人で最も多く、次いで愛知県が11人、大阪府、神奈川県、京都府、広島県、岐阜県が10人の順になっており、北海道は7人で13番目となっている。

4月末も埼玉県が61人で最も多く、次いで愛知県が58人、千葉県、兵庫県が各々50人の順になっており、北海道は30人で12番目となっている。

区分\都道府県	埼玉	愛知	兵庫	千葉	大阪	茨城	静岡	岡	神奈川	福岡	東京	全国	北海道
4月中死者数	13	11	8	8	10	8	9	10	6	6	244	7	
ワースト順位	1	2	9	9	3	9	8	3	16	16	-	13	
前年比	-4	+5	±0	-10	-1	-5	+2	+3	-10	-7	-65	-7	
増減率(%)	-23.5	+83.3	±0	-55.6	-9.1	-38.5	+28.6	+42.9	-62.5	-53.8	-21.0	-50.0	
4月末死者数	61	58	50	50	48	48	47	43	42	41	1,117	30	
ワースト順位	1	2	3	3	5	5	7	8	9	10	-	12	
前年比	+8	+4	+1	-8	±0	-12	+3	+7	-8	-11	-123	-13	
増減率(%)	+15.1	+7.4	+2.0	-13.8	±0	-20.0	+6.8	+19.4	-16.0	-21.2	-9.9	-30.2	

※構成率は四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合があります。

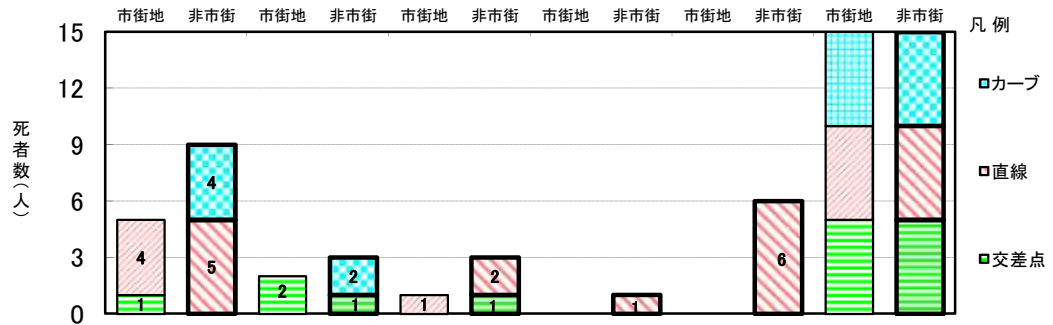
3 死亡事故の特徴

(1) 道路別

国道が14人(46.7%)で最も多く、次いで道道が5人(16.7%)となっている。

- ・ 国道は、非市街地直線が5人(35.7%)
- ・ 道道は、市街地交差点と非市街地カーブが各々2人(40.0%)

で最も多くなっている。



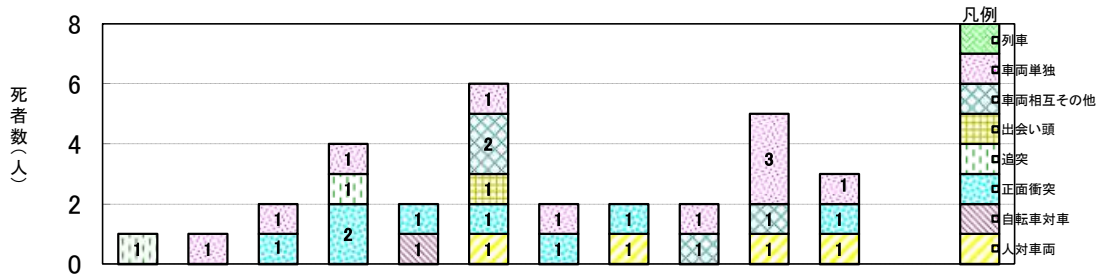
区分\道路別	国道	道道	市町村道	高速道路	その他の道路	計
死者数	14	5	4	1	6	30
構成率(%)	46.7	16.7	13.3	3.3	20.0	100.0
過去5年構成率	48.3	19.4	25.6	3.8	2.8	100.0

(2) 時間別

10~12時が6人(20.0%)で最も多く、次いで18~20時が5人(16.7%)となっている。

- ・ 10~12時は、車両相互他が2人(33.3%)
- ・ 18~20時は、車両単独が3人(60.0%)

で最も多くなっている。



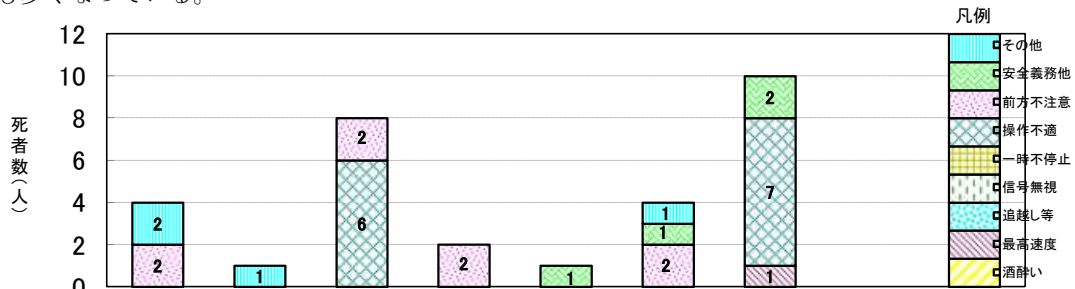
区分\時間別	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24	計
死者数	1	1	2	4	2	6	2	2	2	5	3	0	30
構成率(%)	3.3	3.3	6.7	13.3	6.7	20.0	6.7	6.7	6.7	16.7	10.0	0.0	100.0
過去5年構成率	3.3	4.3	9.0	6.2	12.8	9.5	10.0	8.5	11.4	12.8	8.1	4.3	100.0

(3) 事故類型別

車両単独が10人(33.3%)で最も多く、次いで正面衝突が8人(26.7%)となっている。

- ・ 車両単独は、操作不適が7人(70.0%)
- ・ 正面衝突は、操作不適が6人(75.0%)

で最も多くなっている。



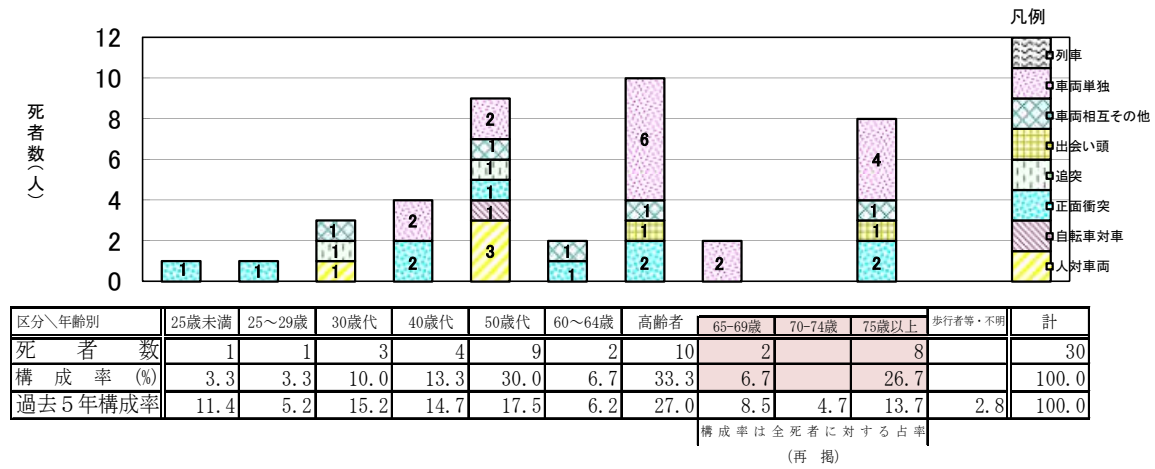
類型別 区分	人対車両	自転車対車	車両相互				車両単独	列車	計
			正面衝突	追突	出会い頭	その他			
死者数	4	1	8	2	1	4	10	30	
構成率(%)	13.3	3.3	26.7	6.7	3.3	13.3	33.3	100.0	
過去5年構成率	31.8	2.4	27.5	4.3	6.6	2.8	24.2	100.0	

(4) 第一当事者の年齢層別

高齢の運転者によるものが10人(33.3%)で最も多く、次いで50歳代の運転者によるものが9人(30.0%)となっている。

- ・ 高齢の運転者は、車両単独が6人(60.0%)
- ・ 50歳代の人対車両が3人(33.3%)

で最も多くなっている。

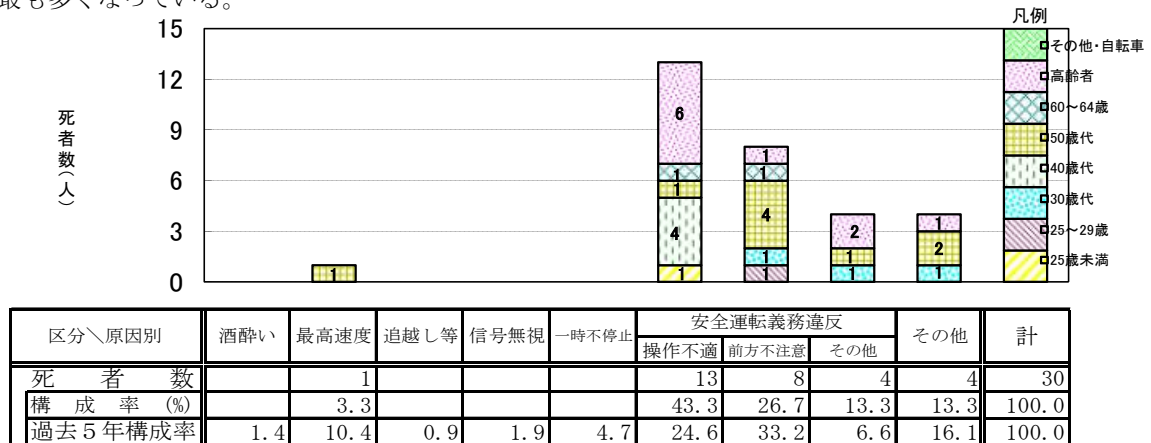


(5) 第一当事者の違反(原因)別

操作不適が13人(43.3%)で最も多く、次いで前方不注意が8人(26.7%)となっている。

- ・ 操作不適は、高齢者の運転によるものが6人(46.2%)
- ・ 前方不注意は、50歳代の運転によるものが4人(50.0%)

で最も多くなっている。

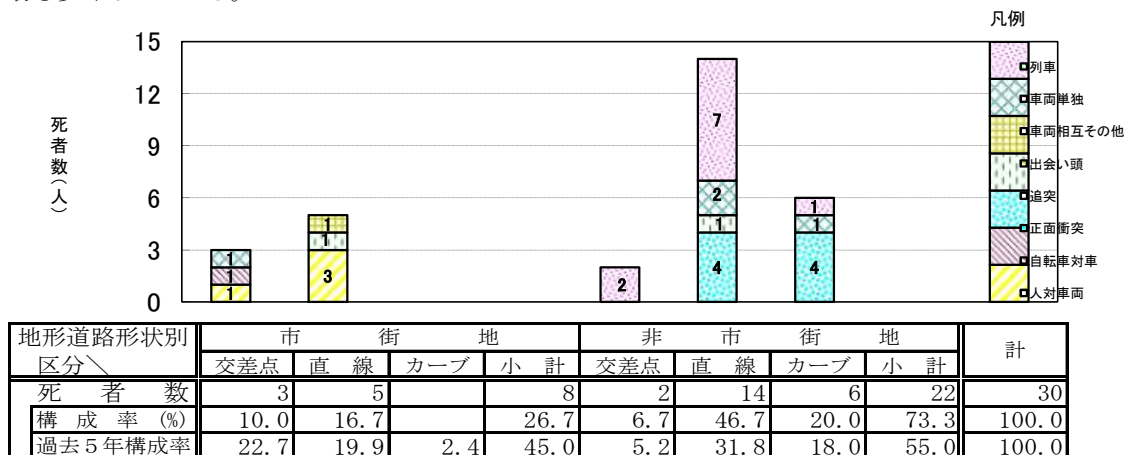


(6) 地形・道路形状別

非市街地直線が14人(46.7%)で最も多く、次いで非市街地カーブが6人(20.0%)となっている。

- ・ 非市街地直線は、車両単独が7人(50.0%)
- ・ 非市街地カーブは、正面衝突が4人(66.7%)

で最も多くなっている。

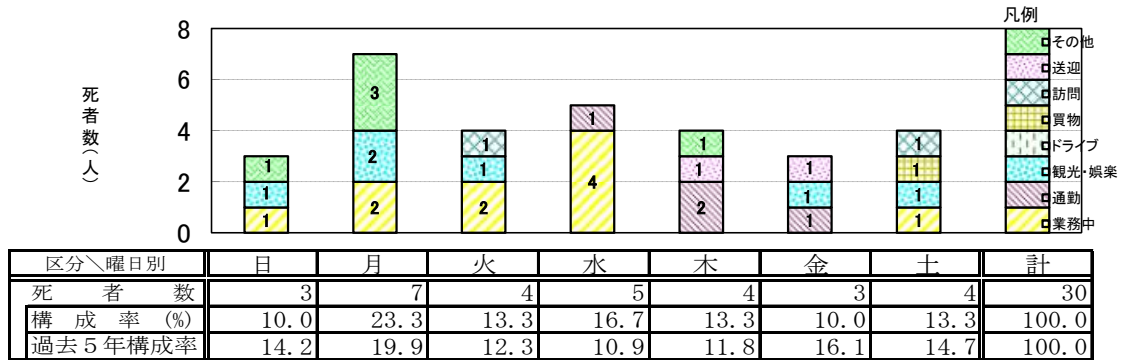


(7) 曜日別

月曜日が7人(23.3%)で最も多く、次いで水曜日が5人(16.7%)となっている。

- ・ 月曜日は、業務中、観光・娯楽が各々2人(28.6%)
- ・ 水曜日は、業務中が4人(80.0%)

で最も多くなっている。

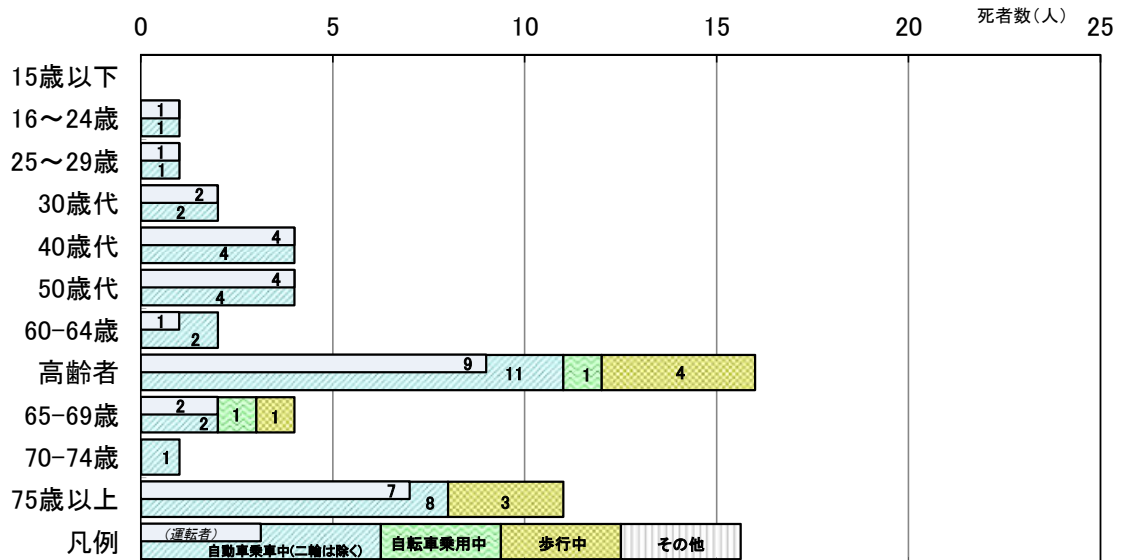


(8) 状態別・年齢層別

四輪乗車中が25人(83.3%)で最も多くなっている。

- ・ 四輪乗車中は、高齢者が11人(44.0%)
- ・ 歩行者はすべて高齢者で4人(100.0%)

年齢層別では、高齢者が16人(53.3%)で、うち75歳以上が11人(36.6%)となっている。



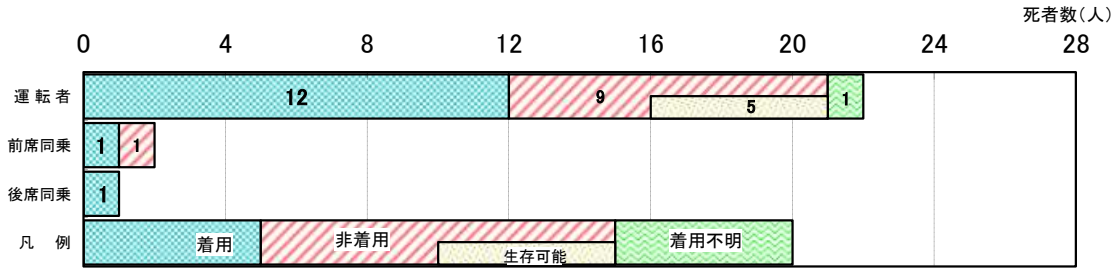
状態別 年齢層別\		四輪 乗車中	二輪 (原付を含む) 乗車中	特殊車 乗車中	自転車 乗用中	歩行中	その他	計	構成率	5年構成率
15歳以下	死者数									
16~24歳	死者数	1						1	3.3	8.1
25~29歳	死者数	1						1	3.3	4.7
30歳代	死者数	2						2	6.7	8.5
40歳代	死者数	4						4	13.3	6.6
50歳代	死者数	4						4	13.3	11.8
60~64歳	死者数	2						2	6.7	8.5
高齢者	死者数	11				1	4	16	53.3	51.7
65~69歳	死者数	2				1	1	4	13.3	8.5
70~74歳	死者数	1						1	3.3	9.5
75歳以上	死者数	8					3	11	36.7	33.6
計	死者数	25				1	4	30	100.0	
	構成率	83.3				3.3	13.3	100.0	—	—
	過去5年構成率	60.2	1.9	1.4	2.4	33.6	0.5	100.0	—	—

注 高齢者の内訳の構成率は全死者に対する占率。

(9) シートベルト着用状況別

ア 乗車区分別

自動車乗車中(二輪を除く)の死者25人中、シートベルト非着用者は10人(40.0%)となっている。
 非着用者10人(運転席9人、助手席1人)のうち5人(50.0%)は車両の破損状況等からみて、シートベルトを着用していれば生存していた可能性が高いと思われる。



区分	自動車乗車中	着用				非着用			着用不明	
		計	運転者	同乗者 助手席 後席等		計	運転者 生存可	同乗者(助手席) 生存可		同乗者(後席等) 生存可
平成28年	25	14	12	1	1	10	9	5	1	1
構成率(%)	100.0	56.0	85.7	7.1	7.1	40.0	90.0	55.6	10.0	4.0

イ 年齢層別

シートベルト非着用者を年齢層別にみると、高齢者が7人(70.0%)で最も多くなっている。

区分\年齢別	25歳未満	25~29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60~64歳	高齢者	65~69歳	70~74歳	75歳以上	その他・不明	計
	ヘルト着用	1	1	2	1	4	2	3			3	
構成率(%)	7.1	7.1	14.3	7.1	28.6	14.3	21.4			21.4		100.0
ヘルト非着用				3			7	1	1	5		10
構成率(%)				30.0			70.0	10.0	10.0	50.0		100.0

注 構成率は区分別の合計数に対する占率。
 高齢者の内訳の構成率は合計数に対する占率。

ウ 損傷加害部位別

シートベルト非着用者10人のうち、人身損傷加害部位をみると「ハンドル」が2人(20.0%)で最も多くなっている。

区分\部位別	車外放出	車外他	ハンドル	フロントガラス	計器盤	ドア・窓	柱	天井	座席	車内他	その他	計
ヘルト着用			2	1		3	1	1	1	3	2	14
構成率(%)			14.3	7.1		21.4	7.1	7.1	7.1	21.4	14.3	100.0
ヘルト非着用			2			1		1	1	1	4	10
構成率(%)			20.0			10.0		10.0	10.0	10.0	40.0	100.0
運転者			2			1		1		1	4	9
構成率(%)			20.0			10.0		10.0		10.0	40.0	90.0
同乗者									1			1
構成率(%)									10.0			10.0

注 構成率は区分別の合計数に対する占率。
 但し、ベルト非着用の運転同乗者別の構成率は、ベルト非着用の合計数に対する占率。